

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		誰もが安心して暮らし続けられる地域共生社会を実現したい	長浜市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	様々な世代が楽しめる体験型施設について		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名 (公開)	ファミリエクーヘン		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	3	
チームメンバー数 (公開)	3 名		
代表者 (公開)	広瀬里奈		
メンバー (公開)	西川日菜、ルイスヒロシ		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名 ([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

☐

＜チームメンバー名簿: [メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

3 世代全員が楽しめる施設をつくる

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

○様々な世代で楽しめる体験型施設を作り、滋賀県北部地域の活性化を目指す。

・3 世代が楽しめる体験型施設をアクセスしやすい駅近に作り、伊吹牛乳や近江茶などの地元のものを使って飲料も提供できるようにする。

・家族間だけでなく参加者同士、さらには滋賀県北部地域住民での関わりを増やして、地域活性に繋げる。

・現在核家族化や高齢者の単独生活化が進んでいるため、地域の子供たちなどと触れ合いたい高齢者の方をこの活動のボランティアとして呼びびして、地域の関わりを増やしてさらに地域活性を進めたいと考えた。

さらに、より多くの人に施設に来て楽しんでもらうためにバリアフリー化も考えている。

・最終的には、1 つの商品だけでなく、期間ごとに様々な食べ物を作って楽しむことができる体験型施設を作り、この取り組みを大きくしていきたい。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

まず私たちは滋賀県の地域課題として、コミュニティで交流できるものがないことから、様々な世代に向けた施設や飲食店を作りたいと考えた。

それについて調べていく中で、

・特定層が楽しめる体験型施設があっても、様々な年齢層と一緒に楽しめるものがない。

→特に3世代で楽しむとなると、私たちに身近な飲食店だったら味の好みが変わったり、気軽に入ってゆっくり話せたりできるようなお店がない。

・祖父母の方が食のジャンルやお店の雰囲気などを孫に合わせたり我慢したりすることが多い。

などということがわかった。

→だから、滋賀県北部地域を市民全体で活性化していけるように、様々な世代が繋がることのできる施設を作りたいと考えた。

なぜ体験型施設なのか

体験型施設であれば、現在人気で注目を浴びやすく、体験を通じて普段は中々見られない家族の一面が見られ、仲が深まりやすいと考えたから。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1、実現する主体

私たち「ファミリークーヘン」が主体となって、まずは限定店舗のような小さいものから、最終的には様々な世代が繋がれる、様々な体験ができる、ような大きな施設をつくります

2、実現に必要な資源

○ヒト

私たち 3 人と、地域でボランティアとして手伝いたいと言ってくれる方々を募集する

○モノ

体験をするための場所を地域から援助してもらう

○カネ

体験を有料にして、その分の資金を運営に回す

足りない分は地域からの助成金や補助金で賄う予定

3、実現にいたる時間軸を含むプロセス

①どここの場所で体験を行うかを決める

↓

②どんな体験をするかを具体的に決める

↓

③人を募集する